

「地域おこし人サミット 2018」

日本全国のキーパーソンが集結！

・・・写真ニュース・・・(速報)



「地域おこし人サミット 2018」

2018年6月30日(土) 7月1日(日)

開会 6/30(土) 13:45~13:55

分科会 6/30(土) 14:00~17:30

7/1(日) 10:00~11:30

本会議 7/1(日) 13:00~16:00

会場 都市センターホテル 分科会

JA 共済ビルカンファレンスホール 本会議

主催 未来を創る財団

後援 Wedge



分科会セッション



14:00 から第 1 分科会「地域おこし人の条件」がスタート。「地域おこし人」の条件を探る。セッションリーダー塩川 Wedge 編集長。第 2 分科会「良いものを高く売る仕組み」熊本県菊池の事例で、6 次産業化、高付加価値など成功パターンを（下左）。第 3 分科会「自然循環型の仕組み」八幡平の牧場の事例を導入に循環型農業（下右）。



30 分のティーブレイク。一気にコミュニケーションが広がる時間



第 4 分科会「共感資本主義」クラウドファンディングなど「共感」を呼び起こして資金を集めるファンドレイジングの達人たち（下）



第5分科会「新しい切り口での町おこし」アーティストや意識の高い人たちを集めることで町おこしを狙うケースを考える城崎アートセンター田口館長。Uターンや移住の起爆剤にもなっている（下左）。第6分科会「地域ブランド構築」地域のブランドを担う商品をどう創っていくか。宮崎の事例（宮田理恵宮崎カテナ社長）を導入に議論（下右）。



18:00 から懇親会がスタート。本サミット「後援」の株式会社ウェッジ社長がご挨拶。



8割方の人たちが顔をそろえて懇親会。明日の分科会と本会議に向けて英気を養う。「地方再生のキーワード」取材全撮影を担当した写真家生津氏（右下）、負傷で松葉杖。



7月1日（日）10:00、ファイナルの分科会スタート



第7分科会「官民協働が生み出す新しい出会い」民間の力で利害関係の錯綜する商店街の再開発を成功させた圧倒的実績の高松丸亀町商店街の事例を導入に、様々な担い手が連携して新しい価値を生み出している事例を研究。

分科会 8 「コミュニティ再生のアイデア BOX」 (604)

水力発電を使った地域再生や、公民館活動などコミュニティの再生について議論します。

分科会 9 「魅力発信の場づくり」 (605)

地域の魅力を発信する「道の駅」の伝道師を導入に、新しい旅やおもてなし等の「場づくり」を考える。



本会議

午後は会場を JA 共済カンファレンスホールに会場を移し、未来を創る財団國松孝次会長の挨拶で本会議開始。



本会議前半：

本会議のスタートは、3市長揃い踏みで「“わがまちの地域おこし戦略”について」右から豊岡市中貝市長、菊池市江頭市長、大館市福原市長
3市長のプレゼンテーションは満場をうならせ、圧巻だった。



本会議後半：

「地域おこし人サミット 2018」座長磯山友幸氏から、セッションリーダー各分科会の報告を求め、順次、参加メンバーがコメントを発表した。
以下、発表者のスナップ・ショットです。







未来を創る財団、石坂芳男代表理事の締めくくりで閉会。ありがとうございました。